

学修支援・生活支援アンケート結果概要

I R室

生活実態及びニーズ把握アンケートを把握し、今後の学修支援、学生生活支援改善のため、2019年度から学部学生（1～6年次生）を対象に、「学修支援・生活支援アンケート」を実施しています。

2021年度についても、2020年度同様にアンケートを実施しました（2021年10月にWEBを用いて教務課が実施）。

【結果概要（別紙集計データ参照）】

<全体>

- ・対象は2021年度在学学生1,876名（5月1日時点）であり、回答数が235名（約13%）となった。
- ・本年度より記名式とした。

<学修時間等>

- ・約50%の学生は1日の授業外学修時間（予習・復習）が2時間未満であり、うち約30%が1時間未満であった。
- ・睡眠時間は4～6時間未満の学生が最も多く全体の約40%を占めた。
- ・オフィスアワーを利用したことがある学生は25%であり、多くは利用経験がない。利用したことがない理由の約40%は、「存在を知らない」か「日時がわからない」であった。
- ・予習をしていない学生が約30%、復習をしていない学生が約8%であり、復習に比べて予習をしない者が多かった。
- ・学習方法としては、「講義用教材（プリントなど）を中心としている」（約37%）、「教科書、参考書を中心としている」（約24%）、「自分のノートを中心としている」（約21%）の順に多かった。

○前回調査結果との主な違い

- ・授業外学修時間が多くなっている（「1時間未満」の割合が少なくなっている（24%から15%））。
- ・睡眠時間が「4～6時間未満」の割合が増えている（23%から40%）。
- ・予習/復習の割合は前回調査とほぼ同じである。
- ・「講義用教材（プリントなど）を利用した学習」をしている学生の割合が若干増えている（30%から37%）。

<学修支援>

- ・約60%がアドバイザー制度に満足あるいは、どちらかと言えば満足しているが、利用していない学生が約14%いる。
- ・教員のオフィスアワーを利用している者は約50%であるが、「満足」あるいは、「どちらかと言えば満足している」と回答した学生は約23%だった（「どちらでもない」と回答した学生が次いで約21%であった）。

○前回調査結果との主な違い

- ・「オフィスアワーを利用する」割合が若干増えている（16%から20%）。

<学修成果満足度>

- ・将来役に立ちそうな授業が「まったくなかった」「あまりなかった」とする否定的な回答は約4%であり、ほとんどが肯定的であった。また、肯定的な意見の中では、将来役立つ教育は「薬学専門教育」（約31%）、医療薬学教育（約27%）、実習科目（約24%）で多かった。
- ・学修成果について「大変満足している」「満足している」と回答した学生は約44%であり、「あまり満足していない」「満足していない」と回答した学生が約25%であった。

○前回調査結果との主な違い

- ・将来役に立ちそうな授業が「沢山あった」、「あった」と回答する割合が増えている（74%から86%）。
- ・学修成果について「大変満足している」、「満足している」割合が若干増えている（41%から44%）。

<クラブ・サークル>

- ・クラブ・サークルに所属している学生が約70%であった。所属している学生のうち、約92%が本学公認のクラブに所属していた。
- ・クラブ・サークルに所属していない学生は約9%であった。
- ・クラブ・サークルの活動時間は2時間未満が約76%だった。
- ・約83%の学生がクラブ・サークル活動は学業に支障がないと回答した。支障があると回答した学生は約10%、学業にプラスになっていると回答した学生は約7%であった。
- ・クラブ・サークルの活動に対して、「満足している」、「ある程度満足している」と回答した学生は約28%、「あまり満足していない」「不満である」と回答した学生は約37%であった。
- ・クラブ・サークルに加入していない理由の約58%が、「加入したかったが機会を逸した」、「理由はない」であった。中途退部した理由は、「学業の妨げになる」が最も多く、約32%であった。

○前回調査結果との主な違い

- ・クラブ/サークルに加入している割合が増えている（加入していない割合が減っている（30%から9%））。
- ・クラブ/サークル活動により学業を犠牲にしている割合が減っている（18%から10%）。
- ・クラブ/サークルに加入していない理由として、「機会を逸した」割合が減っている（38%から22%）。

<アルバイト>

- ・現在アルバイトをしている学生は約58%いた。約76%が「学習塾講師」、「飲食店」、「販売・サービス」である。
- ・アルバイトをしている約57%が平日と休日の両方に就労しており、休日のみは約27%であった。
- ・深夜時間帯に常態として就労している学生が約8%いる。
- ・1週間当たりの就労時間は10～20時間未満が最も多く約34%であり、20時間未満が約90%を占めた。30時間以上と回答した者は5名（約3%）いた。
- ・アルバイト収入の使用目的は趣味・娯楽が約27%と最も多く、次いで預貯金（約21%）、衣・食・住の費用（約17%）としている。学費としている学生も約6%いる。
- ・約77%の学生がアルバイトは学業に支障がないと回答した。
- ・アルバイトをしない理由として、「やりたいが時間的余裕がない」と回答した者は約58%である。
- ・アルバイトをやめた理由の約52%はクラブ・サークルや学業が忙しくなったためと回答した。

○前回調査結果との主な違い

- ・アルバイトをしている割合は前回とほぼ同じである（前回55%、今回58%）。
- ・アルバイトが学業に支障はないという割合は約80%で前回調査とほぼ同じである。
- ・アルバイトをしない理由として、やりたいが時間的に余裕がないという割合が増えている（47%から58%）。

<大学生活全般>

- ・大学生活全般に「満足している」、「ほぼ満足している」と回答した学生は約51%であるが、その一方で「あまり満足していない」、「満足していない」と回答した学生が約22%いた。

○前回調査結果との主な違い

- ・「満足している」、「ほぼ満足している」という割合が増えている（37%から50%）。